

平成28年12月17日
草津市総合政策部草津未来研究所

1. 平成28年度未来研究所事業 未来創造セミナーの目的

平成27年度は、草津市、特に南草津駅を中心とした地域の課題解決には「気軽に自由に議論や話ができる空間が演出され、常に新しい出会いが創造」される場が必要との過去の調査研究等の提言を受け、常設拠点の必要性の確認と常設拠点を設置した場合の運営手法やプログラムの検討を目的に「未来創造セミナー」を6回開催しました。その結果、このような家庭でも学校でも職場でもないいわゆる第三の場所“サードプレイス”が南草津駅には必要なことがわかりました。

一方で、大学との連携強化プランを検討する草津市大学地域連携強化プラン懇話会を設置し、新たな大学と地域の連携拠点として全国11か所で展開されているアーバンデザインセンターの一つとして、(仮称)アーバンデザインセンターびわこ・くさつ(UDCBK)を開設することが了承されました。

平成28年度は産学公民連携のプラットフォームであるアーバンデザインセンター(平成28年10月15日(土)に市民交流プラザ内に開設予定)を拠点として連携・協働の土壌づくりを目的に未来創造セミナーを開催します。

2. 未来創造セミナーの目的

平成27年度の未来創造セミナーの試行結果、及び草津市大学地域連携強化プラン懇話会における議論等を踏まえ、アーバンデザインセンター事業として実施する平成28年度の未来創造セミナーについては主に次の二つの目的で実施することとしました。

	機能	内容	回数
未来創造セミナー	交流	多様な人々の交流を目的に草津の歴史や草津に住む人々のライフストーリー等を語ってもらう場	4~6
	連携	産学公民連携により、草津の未来のイメージを具現化するアイデアを纏め、社会実験等に接続	4~6

3. 第7回 未来創造セミナー概要

(1) テーマ、目的等

- ① テーマ：ワクワク教室 草津の未来はワクワクドキドキ！
- ② 目的：「草津の未来を考える」をテーマに実際のPBL（Project Based Learning：課題解決型授業）の授業を体験し、今後のUDCBKの活動に活かす。
- ③ 開催日：平成28年12月17日（土曜）午後6時30分から午後8時
- ④ 開催場所：草津市市民交流プラザ 大会議室（フェリエ南草津5階）
- ⑤ 講師：安居 長敏 氏（滋賀学園中学・高等学校校長）

(2) 当日のスケジュール

18:30 ~	開会挨拶、安居先生ご紹介
18:50	UDCBKの紹介
18:50 ~	「ワクワク教室 草津の未来はワクワクドキドキ！」
19:50	滋賀学園中学・高等学校校長 安居 長敏氏
19:50	アンケート記入・写真撮影
20:00	閉会

4. 第7回未来創造セミナーの内容について



写真1. 会場風景 後方にキッズスペースを設けました。

(1) 課題解決型授業

ワクワク教室 草津の未来はワクワクドキドキ！

滋賀学園中学・高等学校校長 安居 長敏氏

現職の前に女子高で20年教鞭をとられ、その後全く別の仕事も経験された安居先生の視点により、滋賀学園での教育の現況や、将来予想のユニークなスライド視聴など交え、教育現場の現状をお話いただき、変貌するであろう未来社会で子ども達や私達がそこでどうあるべきかを考え、課題解決へ導く授業をしていただきました。

Be the first penguin (授業テーマ)

多くのペンギンたちは臆病が故に躊躇して餌のある水を眺めているだけです。そのなかで勇気ある1匹が水に飛び込むと、他のペンギンたちもあとに続いてみな飛び込んでいく。 私たちもその勇気ある最初のペンギンになりましょう。

未来を予想してみると

2030年、3人に1人が65歳以上という高齢社会が推定される。

専門家の研究によると、現在小学6年の子どもが就業する頃には、半分以上が新しい仕事に置き換わっていると予想されています。現在ある仕事の半分-通訳や証券マン、教師、レジ係などの仕事はAI（人工知能）の仕事となり、人は一週間15時間労働で社会生活が送れるようになるといわれている。そのような未来の社会で必要な能力とは？ そのための教育とは？

変わりつつある教育システム

学校教育は従来文部科学省が主導してきたが、企業論理で動くような経産省や総務省、政府や産業界から子どもの育成要請が活発化、教育システムの改変が望まれ学校側も変わりつつある。（社会が求める人材育成が学校に求められている）

2020年にセンター試験は廃止が決まっていて、大学入試はこの先試行錯誤され変貌することが予想される。

アイデアを実行に移し周囲に価値をもたらす子どもの育成が至上課題となっている。



写真2. 安居先生授業風景
世の中の4段階の人々（スライド）

- Level 1 言われたことだけやる人
- Level 2 課題を見つけるが文句だけしか言えない人
- Level 3 アイデアを出せるが「こうしたらいいのに」しか言えない人
- Level 4 アイデアを実行に移し周囲に価値をもたらす人

知識を詰め込む20世紀型の授業から、学び方の種をまく21世紀型の人間の育成へ

20世紀の教育を受けてきた人間：未知の事柄に対し良し悪しにかかわらずとりあえず否定的な返答をする。多分無理、やめておいた方がいい。等

21世紀型の人間：相手の呼びかけをまず受け入れてから、自分の考えで可否を判断する。

滋賀学園でも 教師が一方向的に生徒を教える授業から生徒の質問によって教師も学ぶ双方向の授業、知識を与えるより生徒に学びの種をまく授業を実践している。例えば課題を出して皆で考え、実体験して答えを出す授業。

企業と地域・学校とがいかに結びつくか

地域の課題を生徒に考えてもらう授業では、

「どうすれば10年後の町の人口が増加するか？」という課題を与えました。

市役所職員から現在の人口動態や市の現状をお話いただきます。そこで生徒は数字の扱い方、どう説明すれば具体的な話になっていくかを学び、自身で感じ考える力を養います。その結果、高校生ならではの豊かな発想で色んな案が出ることにより自治体にも影

響をあたえるようになりました。

福井県では女子高生が市の職員と同じように街づくりを考える取り組みもあります。

学びのモチベーション

このように自分の考えを提示し、社会人としての大人に受け入れてもらえることが生徒にとって大きな学びのモチベーションにつながることも重要です。

考える力をつける

自分が当たり前だと思っていることにはもっと沢山の捉え方・考え方が存在する。例えば 裸足の文化の国では靴の販売は不可能だと捉えがちですが、そこには可能だという考え方もあります。裸足の社会で靴を履けばかっこいい、という発想からいいものを作って誰かに認めてもらえればファーストペンギンの如く皆が後に続いて靴が売れていく、という考えもあります。このように固定観念以外の考える力も必要です。

「できないという理由」をそっくり前にNOTをつけて裏返せば
「できるための方法」に変わります。

(2) ワーク 課題

最近あきらめていたことの「できない理由」を「できる理由」に変えてみよう。

ワークの方法

参加者が各自B3用紙で設問を与えられ、安居先生の例えや助言によって自分で考え、記入する形式で進められました。

- ① あきらめていたこと を書き出す。
- ② なぜ無理なのか分析してみる。
- ③ どうすればできるのか書き出す。

※ここでは「できる方法」を考えるのではなく、思考のプロセスを変えてみます。
「できない理由」をひっくり返してみるにより次の一歩を踏み出します。

お金がないから無理→どうすればお金ができるか？お金がなくてもできる方法は？

このようにまず自分の固定観念以外の方法を考えてみます。

結果、可能性が生まれた！へと導かれる。

(3) 講義の最後に

中高生の思うカッコいい大人とは

自分の意見が言える。

理由をつけてあきらめない。

自分の決めたことをやりきる。 など。

→では、大人はどうする？

自分の価値観・常識の枠に閉じ込めず純粋なこどもの心に立ち返ってそのときの自分ならどう思うか、こどもと一緒に考える。

ある皇后の子育て論

わが子が成長してどんな状況に直面するかは分からないことなので

今自分が思う幸せの価値観を子どもに与えることはしません。

子どもが小さな頃から一緒に考え、多様な考え方を導くことにより

自分で色々な考え方ができるような種まきをするべきです。

子どもには自分の幸せを自分の考えで選ぶことができる大人になってほしいのです。



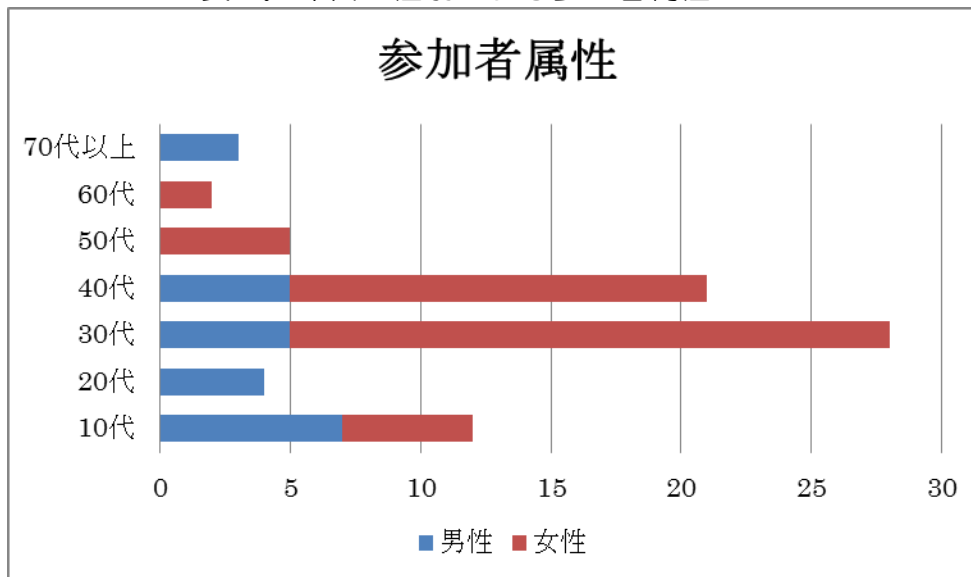
写真3. 記念撮影

Real life street smart

5. 未来創造セミナーとしてのまとめ

(1) 参加者属性

表1. 年代・性別による参加者属性



参加者97名に対し、アンケート回収数は76件でした。回答率は78%でした。
教育関係の内容ということもあり、30代～40代の子育て世代の参加者が多い結果となりました。

(2) セミナー参加者の主な意見

- UDCBKについての概要は分かったのですが、一般市民がどう関われるのかよく分かりませんでした。何かのイベントに参加するのでしょうか。
- 自営なので、「できない理由」の話は割りとよく考えていて、特に新鮮さはなかったのですが今日は娘と来たので娘の今後の生活に活かしたいと思います。良いきっかけになりました。
- 「20世紀型」と言われて納得しました。これからは無意識に20世紀型思考に流されず意識的に可能性の広がる考え方、発言を心がけたいと思いました。
- 未来の学校、未来の教育がすごく分かりやすくイメージすることができました。ワクワクしてきました。どんどん教育を変えていける！とますますやる気になりました。一時間の講演が本当にあつという間でした。安居先生のお話をもっともっと聞いてみたいと思いました。ありがとうございました。
- 安居先生のごことはあまり知らずにさそわれたので来ました。講演会という固くておもしろ

ろくないイメージですが、今日は聞いていてワクワクしました。とても分かりやすく聞いて楽しかったです。これからの子育てに役立つ話をありがとうございました。

- 将来のこと、教育の現状を知れてよかった。100点とることだけにフォーカスしがちな現実。本当に変えてほしいと思いました。自分の力で生きていける力、幸せになれる力をもつ子に育つよう、私たち大人も一緒に学び成長できたらいいなと思いました。
- とても勉強になりました！母になってみて、自分の人生を振り返ることがよくあるのですが、まあまあいい大学をでたけれど、一生懸命勉強してきたけれど意味があったのかな、と・・・本当に必要なのは生きる力、人と上手に関わる力だったなとママ達との付き合いで痛感しています。どうか我が子は「幸せになれる子」になってほしい！
- 教育現場のリアルなお話が聞いて貴重な体験でした。自分は20世紀の教育システムに乗ってやってきたので、自分の子どもには21世紀型の教育は受けさせねばならない。親としてのどの様な教育を子どもに与えられるかはよく考えねばならないと思った。
- 何でも否定から入りがちなのでまずは私からそのクセが抜けるように日々意識していきたいです。子育てや自分の人生に活かせるとても意味のあるお話を聞けました。まだ子どもは小さいので学校教育とかまだ先の考えることと聞いていましたが焦りました。夫としっかり話してみます。
- とても有意義な時間をありがとうございました。あきらめている事のできない理由のお話、とても考えさせられました。中2の息子がいますが、こういった事を共に考え、話せるような関係を築いていきたいと思いました。怒りがこみ上げると特に子どもに対してはダメだと分かっているけど否定な事を言いがちですが、否定は絶対ダメだという事、もう1度よく考えます。大変勉強になりました。ありがとうございました！
- これからの時代多様性を認めなければならない。そうでなければ取り残される。今回いろんな意見を受容する為の秘訣が今日の講義で示されていたのではないかと思います。
- UDCBKの活動内容が今日のお話を聞いて知りました。もっと皆に周知してもらえようアピールする方法（園や学校に配布など）があればいいのになあとと思いました。
- 考え方をちょっと変えるだけで前向きになれる。自分の考えを子どもたちに押し付けるのではなく親も子どもと一緒に学んでいけるようにしたいと思いました。
- 変化に対応できる能力が必要ということがよく伝わりました。普遍的な事についても少し触れて欲しいと感じました。
- 今の学校の状況を少しでも知れて、勉強になった。自分が学生だった頃と随分変わってきてるのを知って驚いた。自分の子どもが成長して学校に行くころにどうなっているのかアンテナをはって情報を得ていきたいと思った。

(3) UDCBKとしての成果

冒頭にUDCBKの説明を行い、安居先生の講演にシームレスに接続することにより、UDCBKの理念についてより理解が深められたと考えます。

(5) 今後の課題

今回は97名の方に参加いただきました。UDCBKのことを知っていただいたので、今回の参加者を通常のUDCBKのセミナー等にうまく誘導するような仕掛けが今後の課題です。

以上